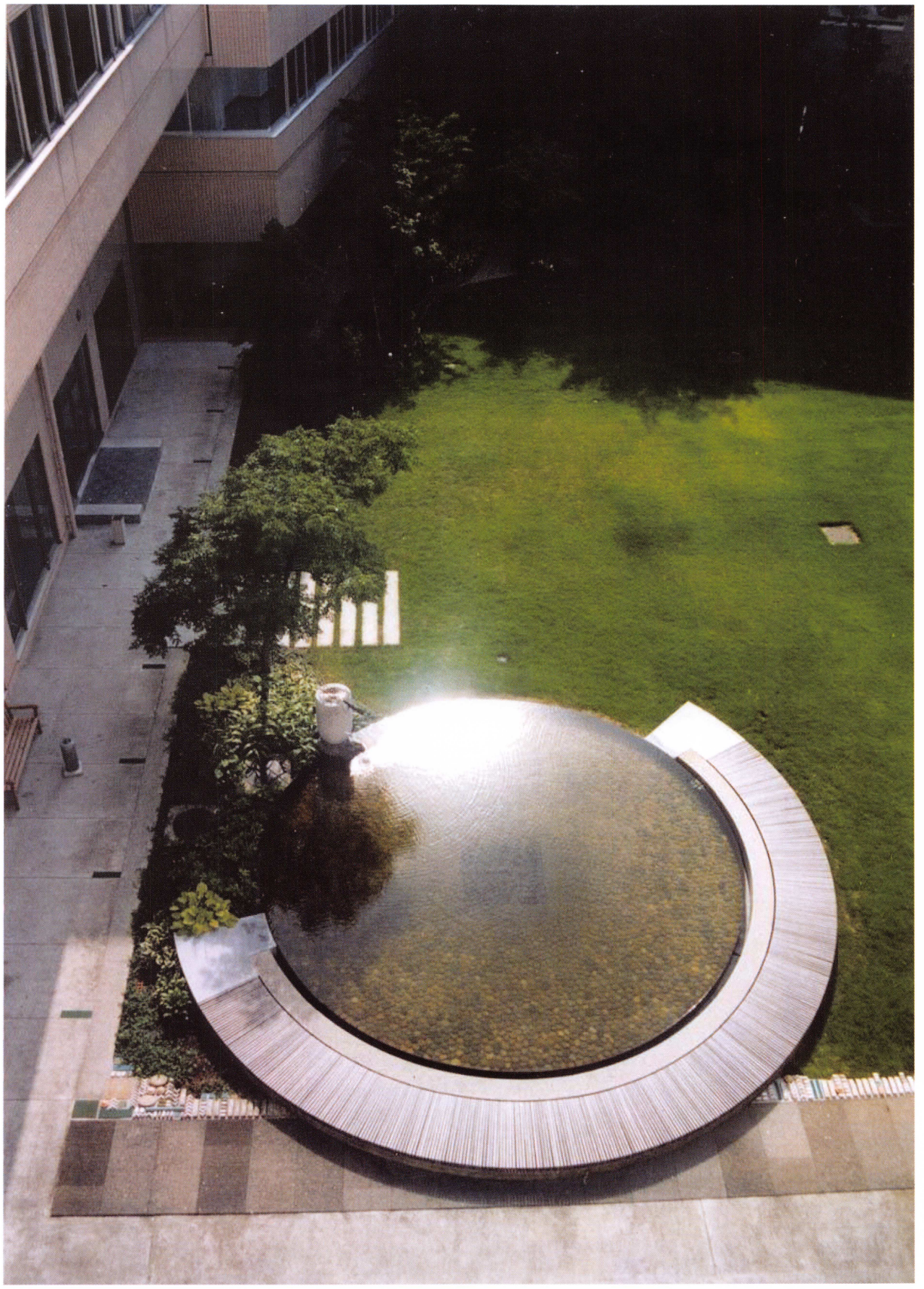
中部大学25号館中庭「花鏡の庭」

Hanakagami, Courtyard of Bldg. No.25, Chubu University

岡田憲久
Norihisa Okada



直径７mの円形の池、「花鏡」を25号館４階から見おろす。

「花鏡の庭」は中部大学25号館（人文学部校舎）の増築に伴い、芝貼りだけであった中庭を改修したものである。この建物は元々、中部大学女子短期大学の校舎として建てられたためやさしい印象である。コ型の校舎がロ型に増築され、周囲の緑あふれた環境から切り離された中庭が生まれた。

設計に当たってはこの中庭に、かたわらの既存林を取り込むことで自然の強い生命力を注入し、また密度ある庭園造形を加える事を試みた。建築デザインの印象にも合わせ、静謐でありながらもやさしく華やぎ、学生・教職員が授業の合間にほっと息をつき、思索し、そして戯れることのできるような、生きて利用される「広場、そして庭園」であることを模索した。

25号館エントランス・ホールから臨む前景には円形の池を配し、その半分をベンチで囲んで水のそばで寛げるようにした。池にかかって据えた手水鉢には、真鍮の筧から水が落ち、手水鉢から再び糸のような水が池に落ちて波紋を広げる。視覚・聴覚的に静かな水の景を演出した。また、池の表面は雲や光の変化、樹木の影など、自然を映し出す鏡となり、中庭という限られた空間に視覚的な広がりを与える。

中景には利用者が自由に使える芝生地の余白を、背景には25号館棟増築の際に残した樹高10mを超えるクヌギとアラカシを中心に雑木林をつくった。北側の自然林を景観として取り込むため、渡り廊下の高さは建築設計の配慮により低く押さえられ、壁面をガラス張りとした。

また、植栽は四季を通して花の絶えないよう計画。宿根草を多用した。草花の維持のために、草花リストとメンテナンス方法を作成し、管理部署にその維持管理の方法を提示したが、今後とも時間をかけてこの環境に合った、管理体制を作り上げてゆく必要を感じている。

現在、この空間は休みともなると学生たちであふれ、三々五々、休んだり話したり読書をしたりする姿を見ることができる。

〈作品データ〉
作 品 名：中部大学25号館中庭「花鏡の庭」
所 在 地：愛知県春日井市松本町1200
発 注 者：中部大学
基本設計・実施設計・設計監理：
岡田憲久（名古屋造形芸術大学）、
景観設計室タブラ・ラサ
監　　理：清水建設株式会社、景観設計室タブラ・ラサ
施 工 者：清水建設株式会社、高村造園土木株式会社
計画及び設計期間：
第1期　2002年8月～11月／第2期　2003年9月～12月
施工期間：第1期　2002年12月～2003年3月／
第2期　2004年1月～2004年3月
規　　模：1,040m²
種　　別：大学構内庭園（中庭）
立地状況：大学構内
主要施設：通路、テラス、水景施設、ベンチ、植栽（樹木、宿根草）

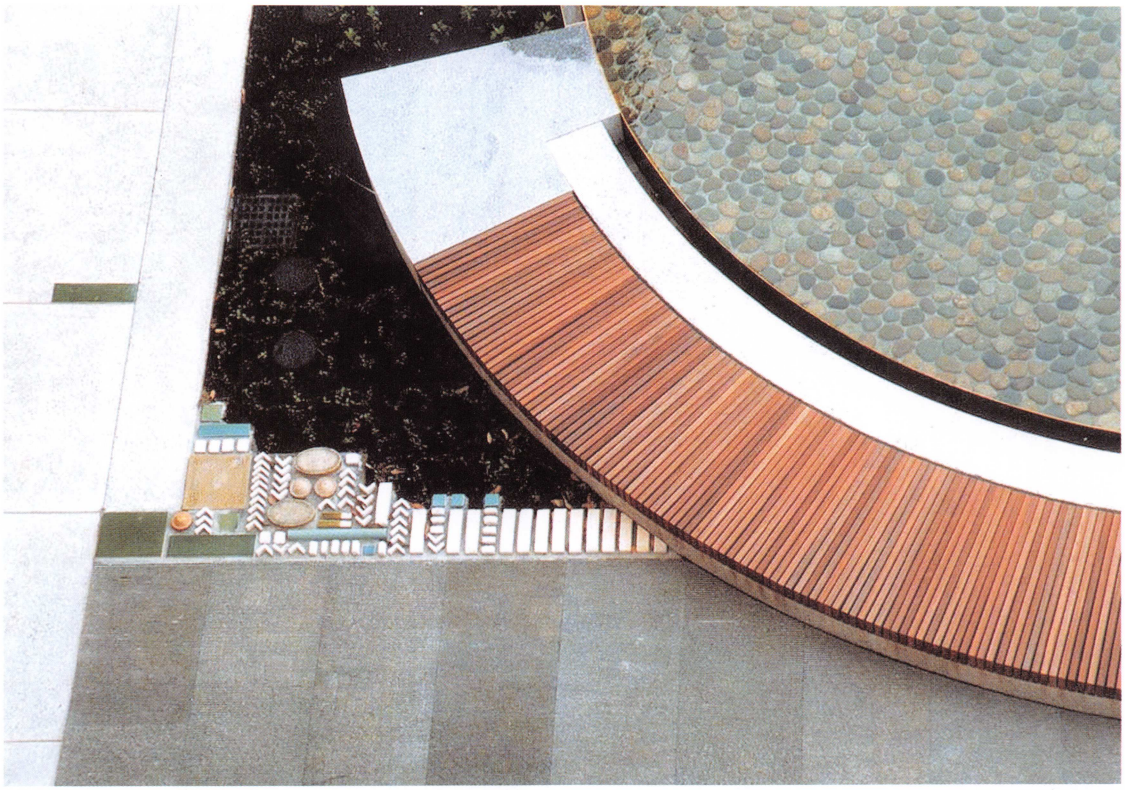
25号館のエントランス・ホールに入ると、ホール正面ガラス越しに中庭が目に入る。（2004年６月）

25号館２階から。空、雲、樹が映りこむ。池辺に植えた木はセンダン。（2004年10月・撮影：岡本由樹子）

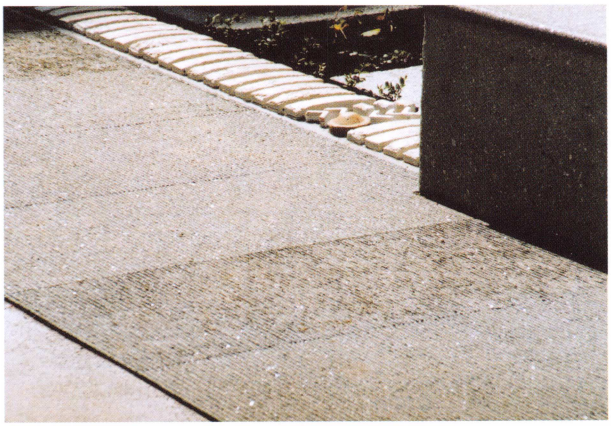
真鍮の筧から手水鉢へ、そして池へと水が落ちる。静かな水面に波紋が広がる。（2004年６月・撮影：岡本由樹子）

北側渡り廊下前の花壇。宿根草は白、桃、水色等のやさしい色合いを選び、四季を通して花が咲くように計画した。(2004年6月)

西側の廊下前の雑木林。既存樹に加え、シャラ、ヒトツバタゴ、ツバキなど花の咲く雑木を多く選んでいる。(2004年4月)



美濃焼きの陶片によるモザイク模様。コンクリート通路には織部焼きのタイルが埋められている（2003年４月）



スクラッチ仕上げの石畳。雲母が光っている。（2003年４月）

既存の井戸に大理石の井筒を制作。（2004年４月）

〈ディテールについて〉

１．設備技術との調整によるデザイン

鏡の池の水はベンチの留め石を境に手前にだけ落ちている。水は表面張力で３mm盛り上がることを利用し、後半分の円の真鍮のへりを前半分より４mm高くすることにより、水を前方にだけ落としている。（この発想は設備費削減の必要から生まれた。）

２．延段の手法をスクラッチ仕上げの石畳に

材料の特性と人間の技術との関係から生まれるテクスチャーとして、テラスの一部に使ったのがスクラッチ仕上げの石敷きである。カッターで７mm感覚に筋を入れ、それをコヤスケという道具で叩き落す。太陽の光で石の中の雲母がきらきらと輝き、美しい。

均一的な表情になりがちな現代の素材の使い方に対して、逆に今の技術を使って素材の新たな表情を探した。

この延べ段は前景と背後に広がる余白との境の景となっている。

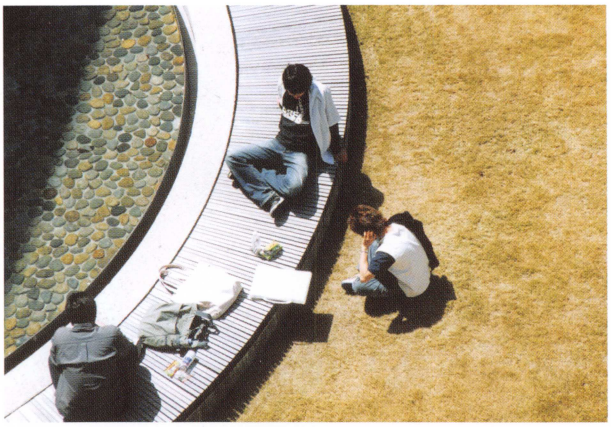
３．美濃焼きの陶片によるモザイク

中部地方は美濃焼きを中心とした焼き物の産地である。「かわらけ」を使う庭の手法を、焼き物の地域性と合わせ、廃品の陶片、焼き物を作るための道具などを組み合わせ、モザイク状にテラスのアクセントとした。

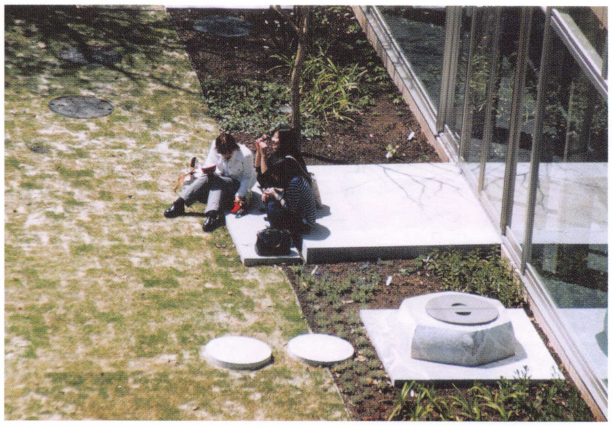
４．織部釉タイルのひふみ石

コンクリートテラスのなかに織部釉のタイルを散らした。一二三石の手法。

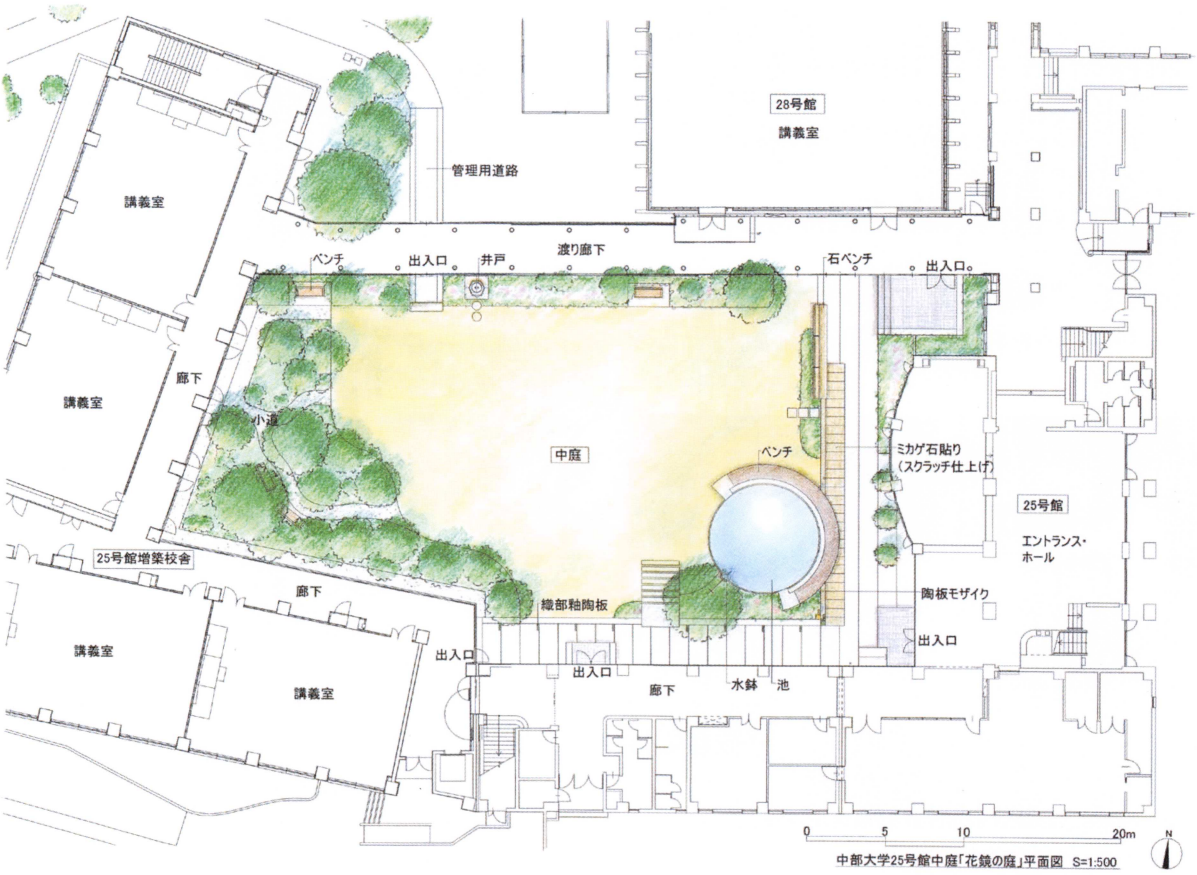
初春の昼休み。（2004年４月）



池辺のベンチで。（2004年４月）



北側渡り廊下への入り口もくつろぎ空間に。（2004年４月）



中部大学25号館中庭「花鏡の庭」平面図 S=1:500